

# 平成27年度 田原市広報広聴特別委員会行政視察報告書

日 程 平成28年1月13日（水）～14日（木）

視察先 1 「議会だよりの編集について」（山梨県昭和町議会）  
2 「議会だよりの編集について（リニューアル・議会改革との連携について）」  
（東京都あきる野市議会）

参加者 委員長 荒木 茂 副委員長 河邊 正男  
委員 杉浦 文平 委員 長神 隆士  
" 辻 史子 " 小川 貴夫  
" 廣中 清介 " 岡本 禎稔  
事務局 議事課長 小久保英夫  
書記 高橋映美子

## 1 「議会だよりの編集について」（山梨県昭和町議会）

平成28年1月13日（水）15時～17時

会 場 昭和町議会

対応者 議 長 三井 猛 氏  
広報編集特別委員会委員長 石原 高明 氏ほか

### （1）概 要

昭和町議会は、議会広報表彰の常連。議会クリニックで推奨する一般質問1人1ページ、一般質問追跡等を行っている。また、山梨大学との提携行事（研修・アンケート）を行っている。

※参考 人口19,288人（推計人口、2015年11月1日）

### （2）参考になった点

- 議会クイズは、住民の直筆メッセージもあり、住民密着の企画である。
- 議会報の語調、字の大きさ等を定義した「編集マニュアル」は、誰でも効率的に議会報を作成できる。井戸端会議、追跡レポート、議会クイズ等が参考になった。
- 議会活動に焦点を当てた特集や、効果的な空白の使い方は参考になった。
- 手に取ってもらうためには、表紙はやはり大切。2ページにわたる大見出しや、写真・余白の有効な活用はインパクトがあった。
- 住民との意見交換会の場である「井戸端会議」は、田原市の議会報告会よりも分かりやすく、ネーミングが良い。
- 目次は、ページ順ではなく、読んでもらいたい順番に工夫されている。議会モニター制度も意義がある。

### (3) 所 感

- 議会広報表彰の常連というだけあり、広報改革に力を入れていた。内容は大変分かりやすく、堅くなく、イラスト・写真を活用し、親しみのある紙面構成がされていて、大変参考になった。
- 最終ページには、市民の声を載せ、裏表紙まで生かしている。最初から最後まで読んでみたくなる編集で、洗練されていた。
- 議会報はいかに手に取ってもらえるかを目的に編集を進め、興味の引きそうなことを大きく取り扱い、市民の目を向けるよう心がけている。特集の内容は、委員の協議で決定しているとのことであった。
- 編集委員の議員自らが視察対応をしてくれ、良いことだと思った。参加することにより内容を共有することができた。
- 議会広報コンクールにて多くの受賞を重ねられ、大変見やすい議会報であった。現状に満足せず、若い世代へ向けての編集にも努めようとしている姿勢を学ばせていただいた。
- 昭和町の編集マニュアルに倣い、田原市議会でも、誰が広報広聴特別委員になっても、分かりやすい議会だよりを作成する必要がある。
- 議会クイズは面白い企画だと思うが、毎号の応募は5-6件とのこと。なかなか思惑通りに事は運ばないようだ。
- 議会報のページ数は、3月・9月定例会は24ページ、その他は20ページと決められていた。配布方法が、全戸配布であったり、町内行政区長を通して配布している点等、田原市議会と共通点が多かった。



## 2 「議会だよりの編集について（リニューアル・議会改革との連携について）」

（東京都あきる野市議会）

平成28年1月14日（木） 午後1時30分～3時30分

会 場 東京都あきる野市議会

対応者 議 長 町田 匡志 氏

広報広聴委員会 田中 千代子 氏ほか

### （1）概 要

あきる野市議会は、2013年に議会だよりをリニューアル。議員と事務局で構成した調査研グループが、全国の先行事例などを参考にしながら検討を重ね、「手に取ってもらい、気づきを得られる広報誌」を目指した。作成した広報誌は、駅頭配布や、効果測定を行っている。議会報告会は、少しでも市民に関心をもってもらえるよう、暮らしに密着した議案を選択、議会用語を極力使わない簡潔な解説と関連質疑を添えている。表紙と連動させ、市と議会について市民と対話する特集もシリーズ化した。

### （2）参考になった点

- 議会報のリニューアルにあたり、有志による調査研究グループを作っている。
- 読者のターゲットをしばった特集、余白の使用方法、統一感を持った議会報は参考になった。
- 特集記事のインタビューアートを表紙としているのはとっつきやすい。
- 読む動線、ホワイトスペースの活用。予算の特集等、よいところは欲しい。
- 定例会報告の PickUP は取り入れたい。コンセプトのある紙面の持続性、プロデザイナーの力は大きい。
- 良い議会報の内容は積極的に取り入れたい。色使いが良い。

### （3）所 感

- 議会だよりは、何がどういう風に決まったのか、どういう過程を経たのか、わかり易く伝える必要がある。
- 読んで欲しい量イコール読める量ではないというのは1つの視点。しかし、一般質問は1人1ページ欲しい。
- 田原市議会の議会報も近年刷新され読みやすくなったと自負している。今回の研修を参考に、レベルアップを図っていこうと思っている。
- 3名の女性議員が、分かりやすく、説得力のある説明をしてくれた。リニューアルに対しては、若い人たちの力が大きな役割を果たした。調査活動で、市民の評価を仰ぎ、議会だよりが市民に読まれていない、役に立っていないことが数字的にはっきりした。これによって議会として、議会報のリニューアルに大きく舵を切ることになった。

- リニューアル前と後に市民アンケートを行い、新旧紙面比較では、リニューアル後の紙面が85%の支持を得ている。
- 多くの人に読んでもらいたいという思いからスタートしたリニューアルは、熱意と情熱を強く感じた。
- マニュアル化して編集委員が統一して取り組めるようにしてあること、継続性を持つためにコンセプトを守る、担当者の理解を統一する、4年に1回の見直し検討をするという取り組みを本市議会も学ぶべき。
- 田原市議会広報広聴特別委員会も議会だよりを改革し、以前に比べると見易くなっていると感じているが、いかに市民の目線にたった議会報を発行するか、そのためには掲載する記事も絞っていく必要があると感じた。
- 議会の意思や活動状況などわかりやすく市民に伝えるとともに、市民が知りたい市議会の情報を的確に把握し、それに答えることにより、市民一人ひとりが市議会への関心を高めることにつながる議会報づくりとしている。
- 当初はリニューアルへの抵抗勢力もあったが、リニューアルしたい仲間が抵抗勢力を納得させ得る出来栄えのリニューアル版をつくってしまった熱意には関心した。

